

行成と実方（説話集）

十訓抄

大納言 行成 卿、いまだ 殿上人 にて おはし ける とき、実方 の 中将、
大納言藤原行成卿が、 まだ 殿上人 で いらつしやったとき、 藤原実方の 中將が

形動・ナリ・連体 係助・疑問 過原推・けむ・連体（結び） 謙（作者し実方し行成）
いかなる 憤り か あり けん、 殿上 に 参り合ひ て、
どのような 憤り があつたのだろうか、 殿上の間に参上して、 行成と出くわし、

形容・ク・連用
言ふ こと も なく、
言葉を発する ことも なく、

動・タ行下二・連用 完了・連用 過去・終止
行成 の 冠 を 打ち落として、 小庭 に 投げ捨て て けり。
行成の 冠を 打ち落として、 小庭に 投げ捨てて しまった。

形容・シク・終止 打消・連用
行成 少しも 騒が ず して、主殿司 を 召して、
行成は 少しも 騒がずに、 主殿司をお呼びになつて、

動詞・サ変・連用
「冠 取り て 参れ。」とて、冠 し て、
「冠を取つて参れ。」 と言つて、冠をかぶつて、

守刀 より 筭 抜き出だして、鬢 かいつくろひ て、居直り て、
守刀から筭を抜き出して、 鬢の毛を整えて、 居ずまいを正して、

形動・ナリ・連体 係助・疑問 現原推・らむ・連体（結び）
「いかなる こと にて 候ふ や」 らん。
「どのような こと で ございましょうか。」

たちまちに かう ほどの 乱罰 に
突然に これ ほどの 乱暴な仕打ちを

<p>当然・連体 係助・強意 動・ヤ下二連用 丁寧補・ラ変・未然(行成↓実方) 打消・已然(結び)</p> <p>あづかる べき こと <u>こそ</u>、 おほえ 侍ら ね。</p> <p>うけ なければならないことは、 思いも寄りません。</p>	<p>その ゆゑを承りて、のちのことに や 侍る べから ん。」と、 (突然)このような仕打ちを受けるようなことがございましたか。いやございません。と、</p>	<p>形容・シク・連用 尊敬・連用 過去・終止</p> <p>ことうるはしく 言は れ けり。</p> <p>礼儀正しく おっしゃった。</p>	<p>実方は しらけて、逃 げ に けり。</p> <p>実方は拍子抜けして、 逃げてしまった。</p>	<p>折しも、 こじとみ 小節 より 主上 御覧じ て、 ちやうどそのとき、 小節から天皇が御覧になっ</p>	<p>「行成 は いみじき 者 なり」。</p> <p>「行成は すぐれた 者である。</p>	<p>かく おとなしき 心 あら ん と <u>こそ</u> 思は ざり しか。」とて、 このように落ち着いた 心があるとは 思いもしなかった。」 とおっしゃって、</p>	<p>その たび 蔵人頭 空き ける に、<u>多く</u> の 人 を 越えて、 なさ れ に けり。</p> <p>そのとき 蔵人頭が空席になつていたので、 多くの人を飛び越えて、任命な</p>	<p>実方 を ば、中將 を 召して、 「歌枕 見て 参れ。」とて、 実方のほうは、 中將の官職をお取り上げなさつて、 「歌枕を見て参れ。」とおっしゃって、</p>
--	---	--	---	--	---	--	--	--

係助・強意

尊敬・連用 過去・連体（結び）

陸奥守になしてぞつかはされける。

陸奥守に 任命して

派遣なさった。

代名詞（陸奥）

完了・連用 過去・終止

やがてかしこにて失せにけり。
そのままその地で 亡くなってしまった。

完了・連用 過去・連体

実方、藏人頭にならでやみにけるを恨みて、
実方は、藏人頭に ならないで終わってしまったのを 恨んで、

動・ラ四・連用

執とまりて、雀になりて、
執着が残って、 雀となつて

過去・連体

過去・終止

殿上の小台盤にゐて、台盤を食ひけるよし、人言ひけり。
殿上の間の 小台盤にとまつて、 台盤をつついていたということを、人が言っていた。

打消・連体

一人は忍に耐へざるによりて前途を失ひ、
一人は忍耐することができなかったために 将来を失い、

完了・連体

断定・終止

一人は忍を信ずるによりて褒美にあへるたとへなり。
一人は忍耐することができたことによつて 褒美にあずかった たとえである。